

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成25年 4月25日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 農学研究科

職 名・学 年 研究員

氏 名 正 岡 直 也

助 成 の 種 類	平成 25 年度 ・ 若手研究者在外研究支援 ・ 国際研究集会発表助成	
研 究 集 会 名	欧州地球科学連合 2013年大会 European Geosciences Union General Assembly 2013	
発 表 題 目	集中的水流観測による山地斜面水文特性の解析 Analysis of heterogeneous hydrological properties of a mountainous hillslope using intensive water flow measurements	
開 催 場 所	オーストリア ウィーン Austria Center Vienna (ACV)	
渡 航 期 間	平成25年 4月 6日 ~ 平成25年 4月14 日	
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()	
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	200,000 円
	使用した助成金額	200,000 円
	返納すべき助成金額	0 円
	助成金の使途内訳	航空券(往復): 125,480 円
		ホテル宿泊費(一部): 74,520 円
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 助成金を出発前に振り込んで頂けたので大変助かりました。 今後の希望として、行先や内容に応じて申請金額の幅を広げて欲しいと思います。	

【研究集会の概要】

申請者は 2013/4/8-12 にオーストリア・ウィーンで行われた欧州地球科学連合 2013 年大会（以下、EGU2013）に参加し、ポスター発表を行った。

EGU は地球科学分野ではアメリカ地球物理学連合（AGU）に次ぐ規模の巨大な世界会議である。内容は宇宙、海洋、気象、地震など多岐に及び、今回は特に原子力や放射線、またシェールガス開発に関連するセッションが注目を集めていた。

速報値によると、今大会の総参加者は 11167 人、参加国数は 95 カ国だった。参加者数が多いのはヨーロッパ諸国で、特に 1 位のドイツが 1954 人と多く、2 位のイギリス(997 人)の倍以上だった。日本は 228 人、アメリカは 706 人の参加で AGU 大会と比べるとかなり割合が少なく、ヨーロッパ色の強い大会であるとの印象を受けた。

【分野全体の傾向】

申請者は主に水文科学(Hydrological Sciences)分野のセッションに参加した。その中で特に申請者が専門とする山地流域を対象とした水文学研究は、ヨーロッパの研究者間ではあまり盛んではない印象だった。ヨーロッパ独特の地形や気象要因から、広大な平原を対象とした、水文学の中でも土壌学や地下水学に近い研究が主であり、手法やモチベーションが日本での研究とは大きく異なっていた。流域水文学はアメリカの研究者による発表が多く、中でも Prof. Jeff McDonnell (サスカチュワン大学) の連名者による水質（特に同位体）を用いた研究が特に興味深いものが多かった。全体の傾向として、観測をしながらモデル計算（比較的単純な分布型モデル）を用いた解析を併用する研究が多かった。自分自身は独自の研究をしながらも、全体の潮流にある程度は適応していく必要があると感じた。

特に刺激を受けたのは水文学や地形学分野で近年注目を集めている Prof. James Kirchner (カリフォルニア州立大学) の Bagnold Medal 受賞講演で、岩石の化学的風化を用いた地形発達や土砂移動モデルに関するこれまでの研究を振り返る内容だった。会場にはレセプションも含め多くの有名研究者が集まり、熱気に包まれ活発な議論が行われた。

【発表の成果と反省点】

申請者は、土層内水流の高密度観測による山地斜面水文特性の解析についてポスター発表を行った。特色である「非常に高密度での野外観測データを用いた解析」は、世界の同分野の研究と比べても類を見ないものであり、ポスターを見た研究者から多くのコメントと高い評価を貰った。申請者の博士課程までの研究や投稿論文、さらに今後取り組む研究についてアピールすることも出来た。ただ、後述する分野の違いから内容の細部にまで踏み込んだ議論は期待したほどは出来ず、新たな着想のヒントとなるようなコメントは少なかった。

申込の際、非常に細分化されたセッションを提示されるが、申込人数が少ない場合は他分野のセッションと合同になることがある。申請者は **Hydrological Sciences** に申し込んだが、**Soil System Sciences** 分野との合同セッションとなった。その結果、本来の会場とは離れた場所での発表となり、同分野の研究者の目に付きにくくなってしまった。

今後同様の大規模国際学会に参加する場合、発表するセッションを事前にしっかり考慮する必要があると思われる。さらに、同一人物でも一度に2件以上の発表を申し込める場合があるので、確実に成果を挙げたいのであれば複数の分野に発表を申し込むのが有効と思われる。

最後に、本研究発表を行うにあたり、助成を賜りました京都大学教育研究振興財団に心より感謝申し上げます。